



青年期論から見た大学生の成長

－何が課題か－

大阪教育大学
白井利明



講演の内容

青年心理学の視点から大学生の課題を示す

- 青年期の課題は何か
- 大学生の課題は何か
- 大学教育への示唆



青年期の発達課題

- 生殖能力の獲得、パートナーを見つける
- アイデンティティの達成、人生観の確立
- 友人関係の互惠性、心の友を見つける
- 職業能力の形成、1つの職業を選ぶ
- 社会常識を身につけ、社会に入る

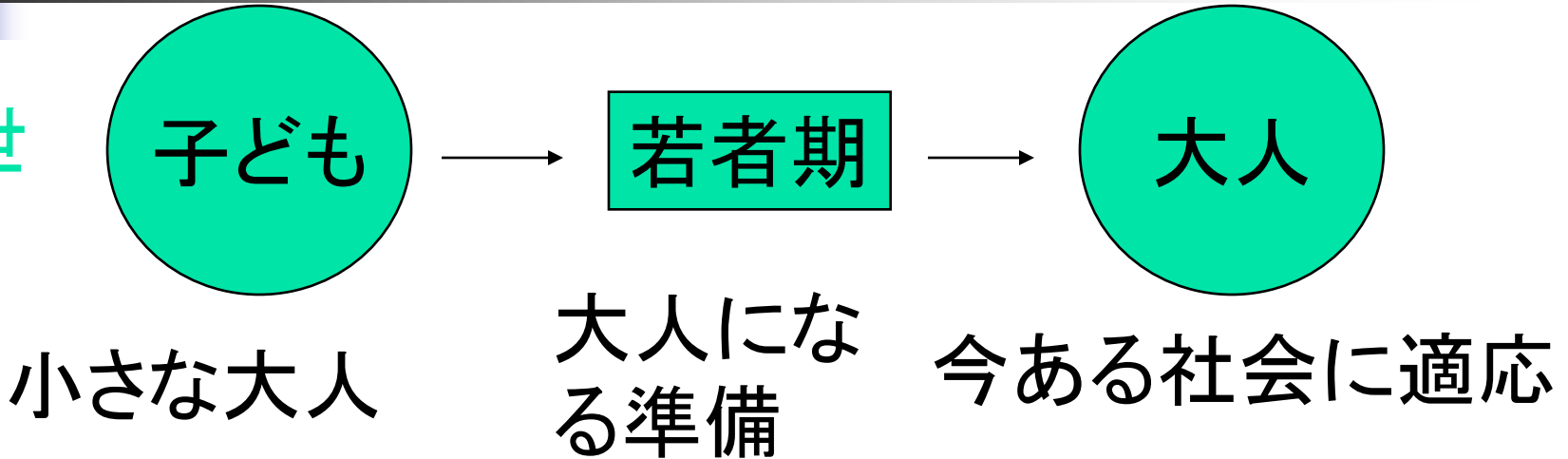


青年期の歴史的意義

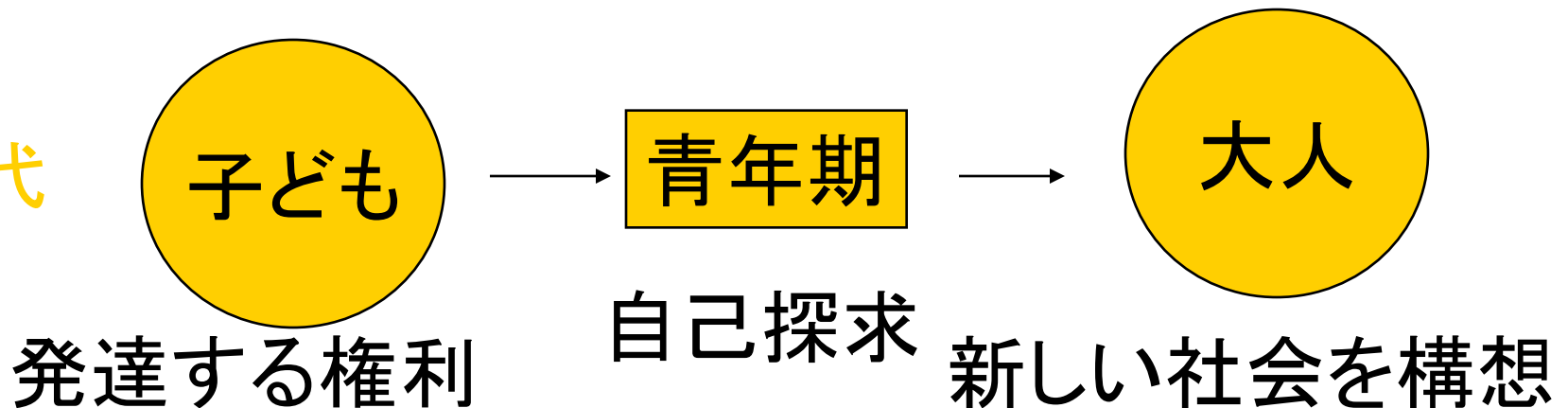
- ルソー(1712-78): 子ども・青年の未熟さの中に、先行世代を乗り越える可能性を見た
- 若者を今ある社会に順応させるというより、新しい社会をともに構想する
- 青年期の固有な価値を認める

青年期の歴史的意義

中世



近代





現代の青年期の問題点

- 青年期が労働や社会と切り離されている：
大人のモデルがない → 青年期の発達
を労働や社会と関係づける必要
- 自己の探求が個人化・心理化されている
→ 自己の発見は世界の発見と平行

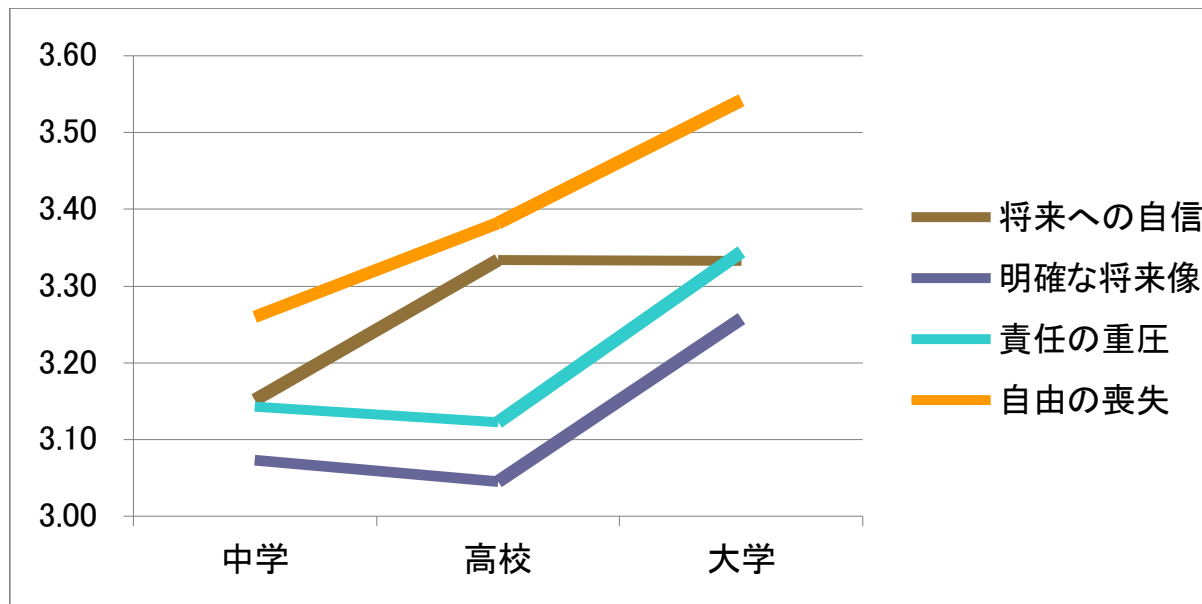


青年期の発達の意義

- **自我の解体と再編成**: 親や学校の期待を無自覚に内面化した固定的で狭い見方をくずす → **規範を守ることと破ること**
- **役割実験**: 安全なところに身を置いて、さまざまな体験をする中で、自己概念を修正する → **悩んだり、模索したり、失敗することが許されることが大切**

青年期を十分に体験して大人になる

大人になることの現状 (吉村・濱口、2007)



因子名は変更してある

不自由な大人像が立ちふさがっている



社会移行の障壁 (稲泉、2001)

- もうすぐ自分は社会にでなくちゃいけないのか？—
—目前に広がっている真っ暗な空間に、誰かに押されて飛び込むみたいな不安が生じてきて、掴みどころのない妙な焦りを感じた。
- どうやら「社会」というのは、はじめに感じていた「飛び込む」ような場所ではないらしい。必死に足を前へと進めているうちに、いつの間にか辿り着いている場所のように今は感じられる。
- 多様な大人との出会い



自我を解体できない例 (長峰、2003)

- 大学院を修了後、医療福祉系のフリーター
- 他人からの評価を気にし、不適応を訴える
- 親は学歴重視で、大きな期待を寄せるが、応えられず、親の期待とは反対の方向へ
- 親は「正論」をいうだけで、自分の気持ちを分かってもらえない
- 親も子も自分の気持ちを伝えられていない



自我を解体した例

(長峰、2003)

- 就職活動で内定を得たが、父親は大手会社にしなさいと言い、どうしたらよいかわからなくなる
- 小さい頃から優等生で、自分の気持ちをあまり言わなかった
- 親も気持ちを伝えられていない
- 親戚やバイト先の同僚と話し合う中で、自分の気持ちを確認する
- 自分の進路は自分で決定する

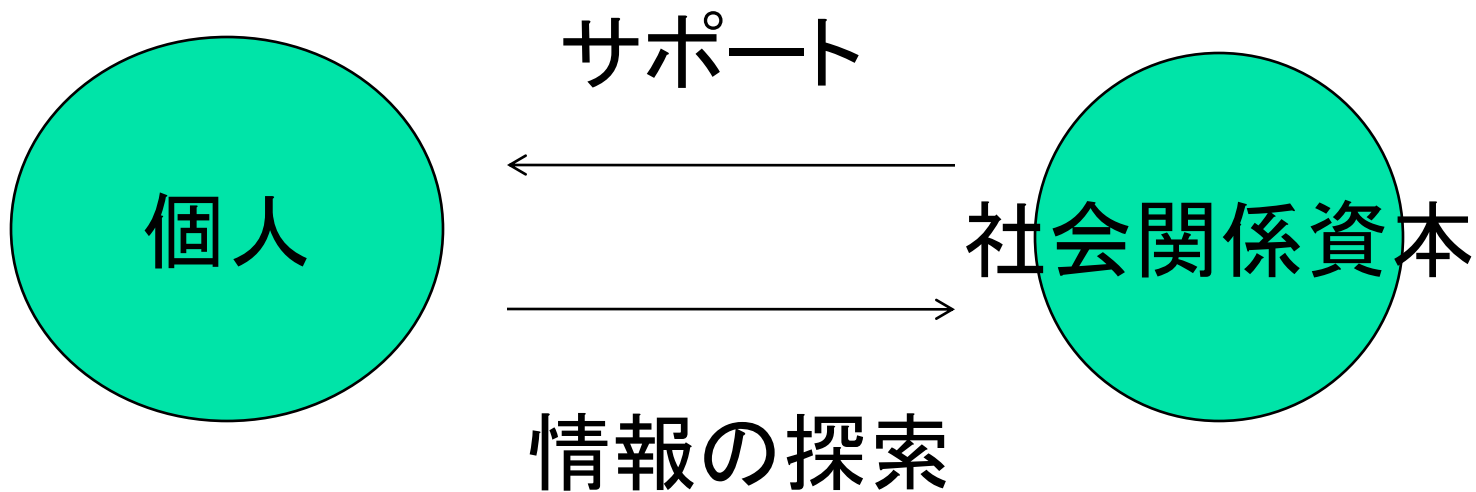


2つの事例から学ぶこと

- 親の「よい学校・よい会社」という期待や「正論」は現実と合わないことがある
- 親も青年も自分の気持ちを表現することが苦手
- 自立するためには、期待や規範をくずして、作り直す必要がある
- 家庭・学校以外の大人や同世代の人との交流が自立の鍵 → 社会関係資本



社会関係資本の意義



社会関係資本＝信頼できる人間関係や社会関係



就職活動の情報探索 (下村・堀、2004)

- 就職サイトの閲覧：就職活動全般を漠然と見通すのみ
- OB／OGとの接触：企業で働くリアリティを形成 → 上首尾な就職活動
- 友人との情報交換：励まし

社会関係資本に接近できることが重要



社会関係資本に接近する力

- 「助けて下さい」と言えること
- 自分の気持ちを表現できる ← 自分の意見をそのまま聞いてもらえる体験
- セルフ・エスティーム：自分が認められている感覚
- 社会的信頼：見知らぬ他者に対する信頼
- 社会に対する知識



大学教育は役立つか (福島大学、2007)

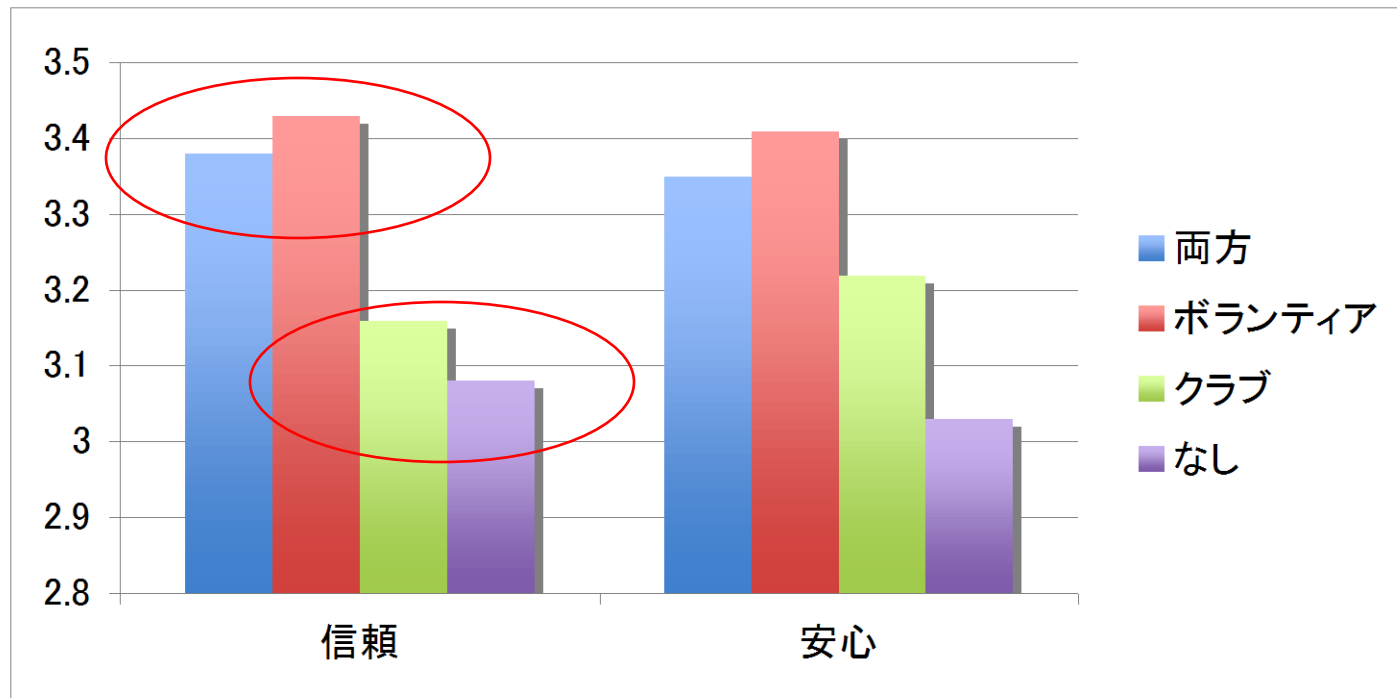
- 1位: いくつか役立つ (平均値 = 3.43)
- 2位: 様々な体験 (3.21)
- 3位: 付き合い (2.86)
- 4位: 学び方考え方 (2.85)
- 5位: 全く別 (2.81)
- **社会関係資本が上位**

様々な体験がどう役立つか (労働政策研

究・研究機構、2007)

- サークル活動での経験。組織をまとめたり、新しいことに挑戦する精神等、人間関係のつくり方等は、自分の大きな糧となっています。（女性・教育）
- 大学での経験というよりは、アルバイトやサークルを通して、多くの人々と接点を持ち、視野を広くできたという経験。（男性・情報）
- 学外実習（インターンシップ）を体験することによって、自分の興味ある仕事を体験でき、希望職種を決める上で大変役に立ちました。（男性・工学）
- 実習、クラブ活動、インターンシップ、アルバイトといった体験型・参加型・問題解決型の活動が役立つ

市民的関与の意義 (Flanagan, Gill & Gallay, 2005)

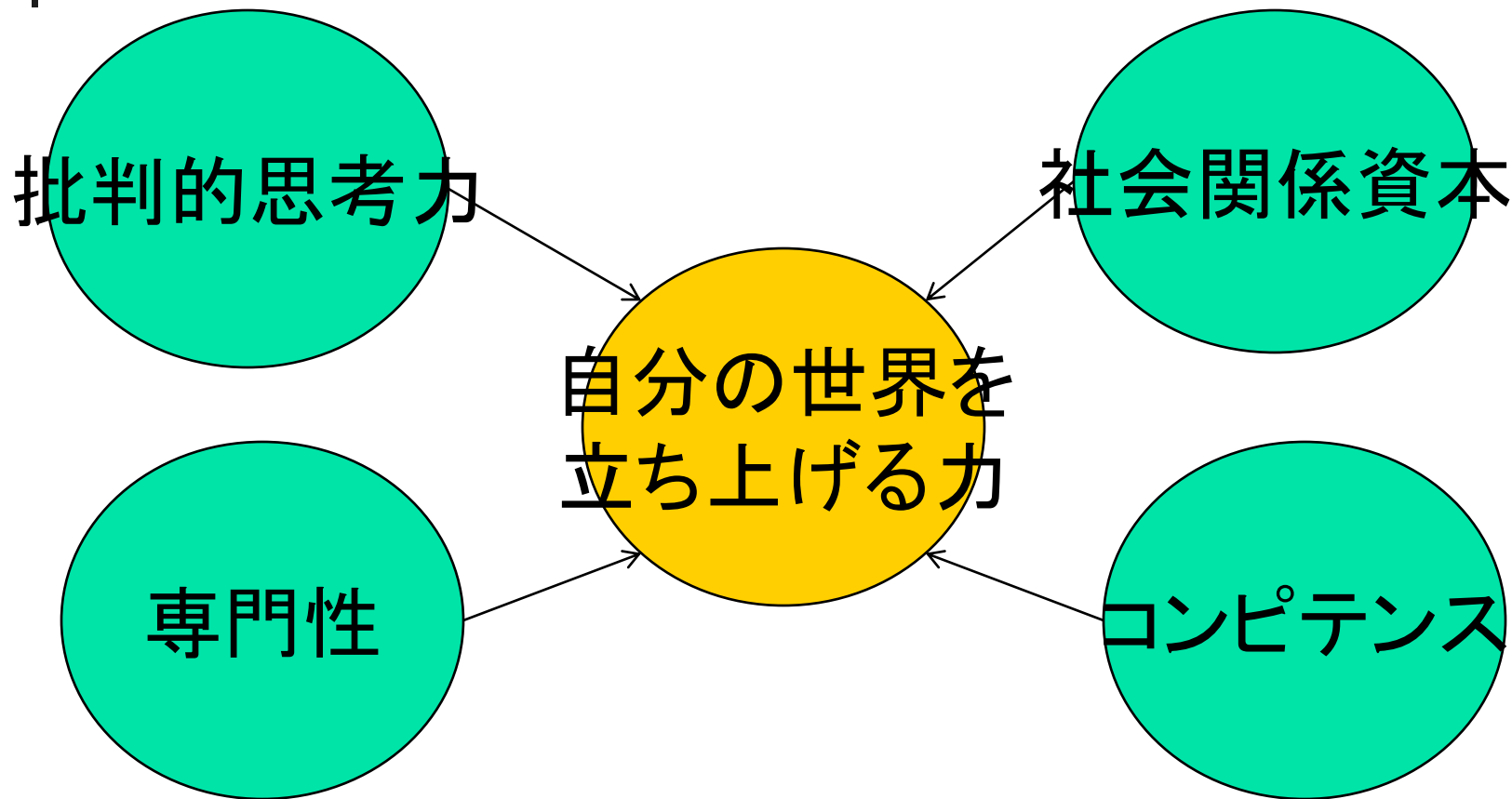


信頼: 私が困っていたら誰かが助けてくれる
安心: みんなは安心して暮らしている

対象は12-18歳、アメリカ、N=1,031

大学の学びの中での位置づけも大切

大学生の課題





大学生の課題

- **批判的思考力**: 論理的に考える、考えを言葉で言える、異なる意見を統合する
 - **専門性**: 知識、方法論、社会的意義
 - **社会関係資本**: 友人、恩師、社会的信頼、学歴
 - **コンピテンス**: 環境を変えることができる自信
- ↓
- **自分の世界を立ちあげる力**



初年次教育を例とした課題

- 動機づけ、スキル学習、補習授業
- 学生をアカデミック・ラーニング・コミュニティの一員にしていく
- 学生にどんな世界を提示し、認識をどう再構成するか
- 学生の学びあいを授業内外でどう組織化するのか
- リフレクションで成長の確認と共有



一つの実践例：信州大学 (西垣、2005)

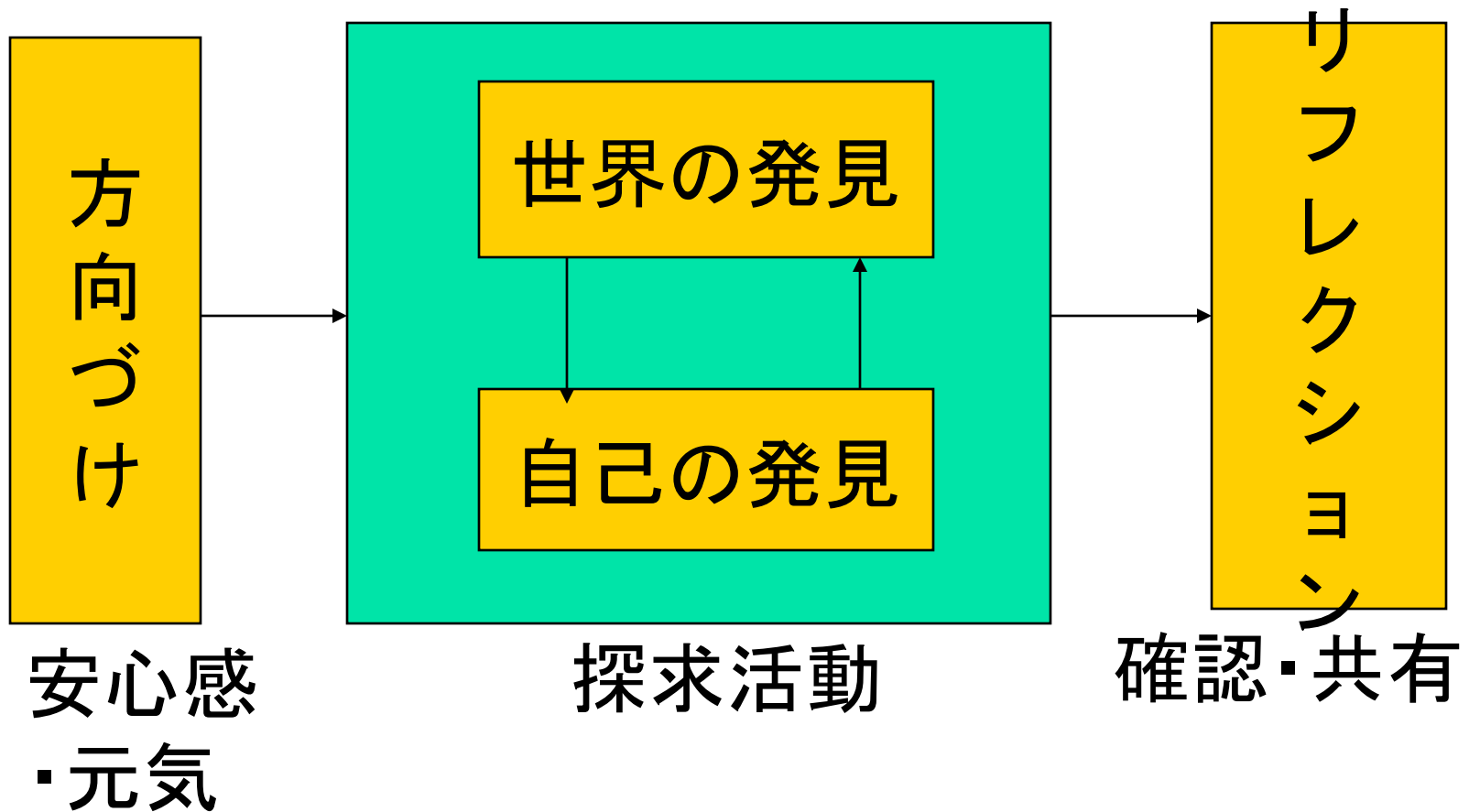
- 教養ゼミ(20名)受け身から主体的学びへの転換：討論、発表、体験
- スペシャルオリンピックスで学ぼうゼミ：ボランティア体験
- 用語集づくり：web上の掲示板
- ポートフォーリオの活用
- 来年度の受講生に向けてメッセージ



取り組みの意義

- 「敗者のいない競技」の世界観
- 多様な人と出会う
- 地域で自分が必要とされ、役立つ経験
- 授業内外の学生の学びあいの組織
- リフレクションによる成長の確認
- アカデミック・ラーニング・コミュニティへの参加

課題追求による青年の成長





大学教育への示唆

- 青年期発達の視点を入れる
- 安全なところに身を置いての役割実験
- 多様な大人や同輩との関わりの中での自分の視点の相対化
- 青年期の課題探求を専門性の学びの中に位置づける



ご静聴ありがとうございました